



2006
No. 2

The Natural Science Publishers' Association of Japan

自然科学書協会会報

発行人・志村 幸雄
編集・広報委員会
発行・2006年4月17日

社団法人 自然科学書協会

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-101 文化産業信用組合内 TEL03-3292-8281

URL: <http://www.nspa.or.jp/>

出版流通改革がめざすもの

—特に専門書の現場から

橋トーハン 企画推進部
ゼネラルマネージャー 関口 晴生

「自然科学書協会」会員各社様におかれましてはますますご清祥のことと拝察申し上げます。また、平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

さて、年初の政府経済見通しでは、9年ぶりにデフレを脱却するとしておりました。出版業界では雑誌をはじめなかなか厳しい状況が続いております。

こうした中、「自然科学書協会」会員各社様が出版されているジャンルであります「理学」「工学」「医学」「農学」「家政学」等では、近年の最先端技術の進歩と連動し、それぞれが融合・複合化されることで、既存分類に収まらず、今後ますますの需要・重要度が増大していくものと推測されます。

こうした「変化」を考えますと、出版物を必要としている読者、研究者・学生の皆様に、販売していただく書店様、そして出版社様に対し、「販売会社として貢献できることはなにか」の一つの答えとして、トーハンは「桶川計画」をスタートさせました。

「桶川計画」は、新しい需要創造に向けた「出版流通改革」の中核となるものです。平成17年11月24日に「トーハン桶川SCMセンター」が始動し、現在（平成18年4月）、「書籍返品センター」(2F)が全面稼働を開始しております。

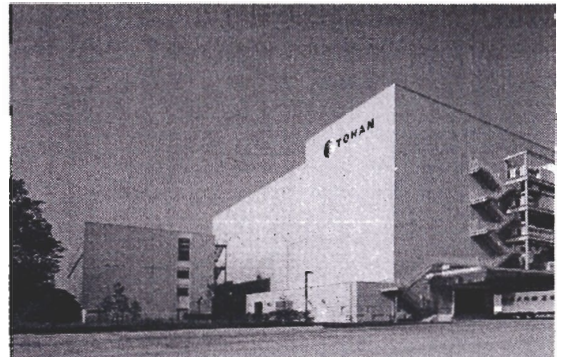
今後の計画では平成18年内に各地に分散している「在庫センター」が「桶川SCMセン

ター」(3F)に集約されます。現在「文京営業所」内にある「総合専門書センター」も今秋には桶川に、非在庫注文品(集品)につきましては平成19年の移転予定となります。なお「採用品」作業は、今年秋期採用品より「文京営業所」にて行う予定です。

この「桶川SCMセンター」の目的はトーハンの書籍物流施設を統合することにより、出版社様のコスト削減、書店様への迅速出荷のほか、「SCMデータセンター」より、書店・銘柄別の受注・送品・売上・返品データを集約・分析し、出版社様と書店様の売上、利益を伸ばしていくことです。

書店様に対しては欠品情報、書店別・銘柄別の販売予測、販売提案を行います。

出版社様に対しては、単品別に推定市場予測の提示や新刊適正配本が可能になります。昨今、市場の変化は激しく、従来のように「常備店」に新刊配本しておけば大丈夫、ということではなくなりました。そこで「SCMデータセンター」のデータ活用により最新情報に基づく「新刊配本」や「常備」を含むセット商品の適性な供給を可能にします。ま



桶川SCMセンター

た、常備等の銘柄選定についても、出版社様に役立つデータ提供ができるようになります。

特に「自然科学書協会」会員各社様をはじめとする専門書出版社様には、刷り部数の減少により「貴重品」になったとも言える新刊配本の適正化と、激変する市場がデータで可視化されることが、お互いの営業活動に大いに役立つと考えております。

現在、販売を伸ばしている「ネット書店」について、トーハンでは「リアル書店」との共存を目指しております。ネット書店「e-hon」はインターネットで読者が250万点のデータベース、50万点の在庫から検索・注文ができ、書店店頭にて受け取るという仕組みです。また店頭で在庫がない場合、読者の注文を書店様がすぐに検索・発注できる客注専門会社「ブックライナー」のサービスもっております。この両機能を支える流通センターも「桶川SCMセンター」(4F)内に集約・拡充されます。

今回の「出版流通改革宣言」は、潜在的な読者ニーズの掘り起こしも含めて各種データ分析を行い、それぞれの書店様に応じた品揃え提案をしていきますが、単に提案するだけでなく、出版物を必要とされる方に買っていただくためにはどうしたらよいか、というところまで、書店様と一緒にやっていこうというものです。

書店様に本を届けるだけでなく、「読者に本を届けるまで」をトータルにプロデュースすること、これが「出版流通改革宣言」のコンセプトになります。また、この計画が成功するかどうかは、本の創り手である出版社様の協力が必須となります。特に「自然科学書」ジャンルは、環境問題や先端科学の進歩を考えた際、我々販売会社はもとより、書店様にとって非常に重要な情報をお持ちになっていると考えています。今まで以上に情報交換をさせていただきたい、それが私どもからの会員各社様へのお願いです。

また、書店様店頭のシステム化が進み、現品にバーコード等の商品情報を付けることや、正確なトーハン商品マスターの維持が販売上重要となっており、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

専門書売上拡大に向けた セブンアンドワイの取組み

セブンアンドワイ(株) 商品部 部長 磯前 史子

私どもセブンアンドワイ(株)は、平成11年8月に設立した創業7年目のネットショッピングサイトです。書籍、雑誌を中心商品に取り扱っております。小売業 No.1 の(株)セブンイレブン・ジャパンをはじめ、インターネットで No.1 のヤフー(株)、日本最大の書籍卸(株)トーハンが株主であり、株主企業と共にお客様のご要望にお応えし続けていきます。

● 当社の特長と仕組み

当社の特長は、11,000店舗以上あるセブンイレブンの店頭で商品の受取・支払いができる、他社にはないサービスであり、セブンイレブン店頭で現金購入ができるため、クレジットカードを持っていない十代のお客様にも多数ご利用いただいております。

また、当社は株主である(株)トーハンの在庫を活用させていただいているのですが、「トーハン EC 流通センター」番線はほぼ当社用の在庫として出版社様に発注させていただいております。当社は、(株)トーハン EC 事業部様に仕入部隊として業務委託を行っております。「トーハン EC 流通センター」番線で発注された場合、セブンアンドワイの客注分となります。

● ジャンル別業績

当社は2003年頃より専門書の売伸ばしを計ってまいりました。当社のカテゴリになりますが、『医学・薬学・看護』カテゴリは前年比133.1%、『理学・工学』カテゴリは126.9%の伸び率であり、取組み開始後、年々需要は増え続けております。『農業書』や『家政書』などは当社の単独カテゴリにはありませんが、『理学・工学』、『歴史・心理・教育』、『生活』などのカテゴリで順調に伸びております。



講演する磯前氏



当協会情報システム委員会主催の「オンライン書店セブンアンドワイの売り方」講演会風景

● 当社の具体的な取組み

① 書誌データの重要性

現在インターネットの急速な普及（利用者は約7,000万人とも言われています）により、インターネットで気軽に商品購入を行う人が増えています。

インターネット書店では、書誌マスタなどのカタログの整備により、お客様が「商品検索」をして簡単に商品を探すことができ、購入できる環境になったことが利用者拡大の要因であると思います。

今後、インターネットでの販売拡大は、「商品検索」で如何にヒットさせるかがポイントになります。当社の「商品検索」はタイトルだけではなく、要旨・目次や内容（書誌データ）も「検索」ヒットの対象にしていますので、商品マスタデータの充実が重要であると考えています。

商品マスタデータが不足していたりすると、お客様が「商品検索」を行ってもヒットしないため、商品を買っていただける可能性を無くしてしまう機会損失を発生させることになります。それは、お客様にとっても良い書籍との出会いが少なくなってしまうたり、お目当ての書籍が購入できないということにつながります。

出版社の皆様が熱い想いをこめて作られたものを1冊でも多く、一人でも多くのお客様にお届けするために、商品マスタデータの充

実は不可欠です。

② ロングテール現象

インターネットには物質的な棚（場所）の制限が無い商品マスタデータがあれば商品（カタログ）が存在することになります。お客様は全てのデータベースの中から商品を選ぶことができるようになり、「ロングテール」現象が起きています。「ロングテール」現象とは、「上位20%の商品で80%の売上は作られる」というようなパレートの法則の逆パターンです。

インターネット書店では実質的に棚の制限が無いため、陳列できる書籍の数は無限です。そのため小部数しか売れない書籍の販売アイテム数が年々増加してきています。そして、下位80%の商品が上位20%の商品以上の売上を上げるようになってきました。「ロングテール」現象は、お客様の潜在ニーズの現れです。今後さらに多様化していくお客様のニーズに合わせて、この「ロングテール」現象は拡大していくと思われます。多様化するお客様のニーズに確実に応えることで、売上拡大を実現していくことが可能になると思います。当社を通して一人でも多くのお客様に1冊でも多くの専門書をお届けするため、マスタデータベースの精度向上にご協力ください。

③ 予約販売

また、インターネット販売では従来の書店では難しかった、新刊の予約販売を行うこと

ができます。書籍の発売前からお客様への告知ができ、販売の機会損失を少なくすることができます。当社でも予約での販売を強化しており、積極的なプロモーションも実施しています。具体的には、類似商品を購入されたお客様に対するダイレクトメールの送付、サイト内での表示強化およびリスティング広告（検索結果のページに表示される、キーワードに対応したテキスト広告）などです。

予約販売は必ず出版社様の許諾を得て実施しておりますので、ご迷惑をおかけすることはありません。書名、本体価格（仮タイトル、予約価格で構いません）と発売予定日、予約締切日をご連絡いただければすぐに開始可能です。

④ 在庫情報の精度向上

商品マスタデータ充実と共に、取寄せ情報の精度向上もお願いしたいと思います。上記にて「ロングテール」についてご説明したとおり、お客様のニーズが多様化していることから、取寄せでも欲しいとお考えになるお客様も多数いらっしゃると思います。そのお客様に対して取寄せ情報の誤りなどでお届けできないとおお客様の信頼を失うことになってしまいます。できれば(株)トーハン倉庫での在庫委託販売がお客様に早くお届けできるのですが、難しい場合は取寄せ情報精度向上にご協力ください。

当社は、医書、理工書、家政書、農業書などの専門書の拡販を出版社の皆様とご一緒にさせていただきたいと考えております。皆様と共存共栄をさせていただくことが当社の発展にもなると思っております。今後ともご指導、ご鞭撻およびご協力を賜りますようお願い申し上げます。

[セブンアンドワイ(株)]

URL : <http://www.7andy.jp/>

連絡先 : 商品部

E-mail : md@7andy.co.jp

TEL : 03-5282-4555

FAX : 03-5282-4554]

(注 : 2006年3月10日に日本出版クラブ会館で行われた当協会主催の講演とはほぼ同様の趣旨を新たに磯前氏にまとめていただいた)

● 自然科学書出版に望むこと①

定番+斬新なアイデア商品を!

ジュンク堂書店京都BAL店 店長 小笠原 準

自然科学書において、理論書を除いてみて、私ども書店の担当者の立場からして魅力的な商品を

- ① 比較的廉価な入門書→単価は低いが部数が多い
- ② 比較的高価なビジュアル本→単価が高い商品が売れる
- ③ 類書が少なくロングセラー化できる→面陳にするとコンスタントに売れると分類してみます。

①は、当たれば話題になりやすいですが、こればかりだと棚が「うすっぺらく」なります。自然科学がテーマの文庫・新書の併売も売上増に効果的です。

②は、たとえば「フル・ムーン」(新潮社)など、本来自然科学書ではない版元の商品が「割って入る」ケースも多く見受けられます。割って入るというより、担当者がピックアップするというほうが正しいでしょう。

③のような商品は、その分野に興味のある方、解説書を必要とされている方がいれかわりたちかわりお買い上げくださいます。「新編 漂着物事典」(海鳥社)など。ただ、ニッチな(稀な)ジャンルが注目を浴びると類書が次々と出てくるのは世の常です。

自然科学書の版元の皆様には、定番の理論書・実務書の他、②と③のタイプで斬新なアイデアの商品をお願いたく存じます。そうしますと、とりわけ我々ジュンク堂のように専門書を中心にしております売場で、担当者の棚作りにも熱が入ります。

私ども京都BAL店は開店してようやくひと月が経った若い店ですが、皆様や読者の方々にお力添えいただき、「京都最大級」の名に恥じぬ売場を作ってまいります。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

専門委員会だより

● 総務委員会

新年会員集会および懇親会からはや4ヵ月が過ぎ、第55期事業年度も残すところ1ヵ月となりました。期中での反省点を踏まえつつ、目下のところ次年度予算案作りを進めております。次年度予算総会(第55期第二回定時総会)は5月18日(木)に開催する予定です。定時総会は協会活動の重要な節目となりますので、是非ご協力賜りますようお願いいたします。

また、総務委員会ではホームページ上へ公開すべき情報や、委員会規定及び慶弔に関する内規の改定といった検討課題を抱えております。協会活動の更なる活性化に繋がるような結果を導き出したいと思っております。(委員長 飯塚 尚彦)

● 著作・出版権委員会

現在、日本複写権センター(JRRC)における「使用料規定」の改正に多くの努力が注がれています。すなわち、従来の2円のみ複写料金を、2円そのものの見直しを含め、複数の料金体系へ、またその分配方法の検討がなされています。これらは「包括契約」における使用料の改正です。もちろんJRRCを構成する4団体(著団連・学著協・新著協・出著協)のそれぞれの立場からの主張には隔たりがあり、特に分配に関しては、多くの問題が存在します。

これらの隔たりを解消し、JRRC内部における意見の一致には可能性があります。また、利用者(経団連等)に受け入れられるには、さらに時間がかかると思われます。

次に、文化庁における文化審議会著作権分科会における法改正の検討に関しては、すでに会員集会等で報告したとおりですが、法改正は次年度以降になるとの見通しです。今後も引き続き検討が重ねられますので、注意していかなければなりません。

著作・出版権委員会で検討すべき問題点について、皆様の意見を参考に進めていきたいと思っています。諸問題が山積していますが、会員の皆様のご協力をお願いいたします。(委員長 及川 清)

● 販売・出展委員会

委員会に新メンバーを迎えて、第1回の販売・出展委員会を開催しました。『東京国際ブックフェア2006』は、会期=7月6日(木)~9日(日)の4日間、会場=東京ビッグサイトで開催されます。すでに3月初めに理事長名で出品要請をいたしました。昨年を上回る2,800冊の出展冊数を目標にしています。積極的な出品をお願いいたします。なお、展示の様式は昨年と同方式を予定しています。当協会の3ブースを有効に生かし、十分アピー

ルしようではありませんか!

『第13回北京国際図書展示会』が8月30日(水)~9月2日(土)の会期で開催されます。当協会では今年も昨年と同様に会員各社からの出展書籍をまとめて展示していくことになりました。

(委員長 平田 直)

● 情報システム委員会

3月10日午後3時より、日本出版クラブ会館におきまして、セブンアンドワイ(株)商品部部長・磯前史子氏を講師に迎え、「オンライン書店セブンアンドワイでの売り方」をテーマに、当委員会主催の講演会を開催いたしました。

講演内容につきましては、講演者によるまとめが別掲されておりますので、そちらをご覧くださいければと思います。

当日の参加者は44社68名と多数にのぼり、講演後の質疑応答時間の際にも、活発な質問がなされ、盛会のうちに講演会は終了いたしました。

リアル書店の棚から専門書が減少していく中、当協会会員社にとって、今後ますますオンライン書店の存在は大きくなるものと思います。この講演会が皆様方の販売促進に繋がることを祈念しております。(委員長 曾根 良介)

● 創立60周年記念特別委員会

◇式典小委員会

当協会の創立60周年記念事業の一環として記念式典を開催することとなり、その式典を成功させるべく小委員会が発足され、今日まで委員の方々のご協力のもと検討を重ねて参りました。

先般、委員会案として3月16日の理事会に提案しましたところ、開催日時・会場が以下の通り決まりましたので、ここにご報告申し上げます。

日時：2006年11月8日(水) 18:00~20:00

会場：日本出版クラブ

規模：会員社・関係者合わせ約130~140名

なお、式典のご案内状は9月中旬に発送する予定です。皆様方の多数のご出席を心よりお待ちしております。(委員長 牛来 辰巳)

「創立60周年記念誌」への 写真提供のお願い

当協会は今年60周年を迎えますが、その一環として記念誌小委員会では、「創立50周年記念誌」以降の10年を追録の形でまとめた、「創立60周年記念誌」を発行する企画を進めています。50周年記念誌同様に、当協会の関連行事を中心に、できるだけたくさんの写真を掲載したいと考えておりますので、以下の行事に関する写真をお持ちの方は、写真の提供をお願いします。締切りは、5月19日(金)です。(記念誌小委員会委員長 山本 格)

- ◆ 「創立50周年、功労者への感謝状と記念品贈呈」(平成9年1月20日)における写真。
- ◆ 「長野オリンピック主要施設見学会と視察旅行」(平成9年5月23、24日)における写真。
- ◆ 「第11回出版印刷セミナー：デジタル時代の出版と印刷」(平成9年11月14日、日本出版クラブ会館で開催)における写真。
- ◆ 「第47回定時総会」(平成10年7月16日、東京會館で開催)の写真。
- ◆ 「98(第7回)北京国際図書展示会」(平成10年8月31日～9月2日、北京・中国国際展覽センターで開催)における当協会のブース写真。
- ◆ 「ロシア極東地域日本図書展98」(平成10年9月14日～20日、ウラジオストック・極東国立総合大学で開催)での当協会のブース写真。
- ◆ 「第1回印刷・出版人の集い」(平成10年11月12日、日本出版クラブ会館で開催)における写真。
- ◆ 「新潟県・六日町方面見学会と視察旅行」(平成11年5月28日、29日)における越後ゆきぐら館、西福寺開山堂、大理石村ロックハート城、薬王寺での写真。
- ◆ 「第2回印刷・出版人の集い」(平成11年11月19日、日本出版クラブ会館で開催)における写真。
- ◆ 「東京国際ブックフェア2000」(平成12年4月20日～23日、東京ビッグサイトで開催)における、当協会ブースや展示の写真。
- ◆ 「マガジンブック見学会」における写真(平成12年7月21日、情報システム委員会が開催)。
- ◆ 「Sブックネット見学会」における写真(平成12年7月27日、情報システム委員会が開催)。
- ◆ 「東京国際ブックフェア2001」(平成13年4月19日～22日、東京ビッグサイトで開催)における、当協会ブースや展示の写真。
- ◆ 「第50回定時総会」(平成13年7月19日、日本出版クラブ会館で開催)の写真。
- ◆ 「第4回印刷・出版人の集い」(平成13年11月15日、日本出版クラブ会館で開催)における写真。
- ◆ 「台北国際図書展」視察旅行の写真(平成14年2月18日～21日)。
- ◆ 「東京国際ブックフェア2002」(平成14年4月18日～21日、東京ビッグサイトで開催)における、当協会のブースや特別ブース「違法コピー撲滅キャンペーン」ポスター展示の写真。
- ◆ 「第5回印刷・出版人の集い」(平成13年11月15日、日本出版クラブ会館で開催)における写真。
- ◆ 「東京国際ブックフェア2003」(平成15年4月24日～27日、東京ビッグサイトで開催)にお

ける、当協会のブースや「違法コピー撲滅キャンペーン」ポスター展示の写真。

- ◆ 「東京国際ブックフェア2004」(平成16年4月22日～25日、東京ビッグサイトで開催)における、当協会ブースや展示の写真。
- ◆ 「アマゾンジャパン視察」(平成16年5月14日、情報システム委員会が開催)における写真。
- ◆ 「第56回フランクフルト・ブックフェア」(平成16年10月6日～11日、フランクフルト)に出版祥会・日本大学出版部協会と協賛出展したときのブース写真。
- ◆ 「東京国際ブックフェア2005」(平成17年7月7日～10日、東京ビッグサイトで開催)における、当協会ブースや展示の写真。
- ◆ 「第55期定時総会」(平成17年7月21日、日本出版クラブ会館で開催)の写真。
- ◆ 「第12回北京国際図書展」(平成17年9月1日～5日、北京国際展覽センターで開催)におけるブース写真。
- ◆ 「第57回フランクフルト・ブックフェア」(平成17年10月19日～23日、フランクフルト)におけるブース写真。

【事務局より】

- ◆ 日刊工業新聞社より、当協会代表者の変更届があった。
旧代表者 菅野 亮一
新代表者 渡部 明浩(出版局長)

編集後記

今号は、取次、書店、オンライン書店の方に、出版社自身では気づきにくいことについて、それぞれ書いていただいた。「自然科学出版に望むこと」は、随時掲載しながらシリーズ化し、数回にわたって書店各社の現場から忌憚のないご意見を寄せていただく予定です。

出版物全体の売上は下がっているが、出版点数自体は増え続けている——この状況の中にあっても、つくる側の視点のみで明るさを見出そうとしていても、かなわない。流通の方々の声に耳を傾けていきたい。

国土も狭く、四方を海に囲まれ、そして言語的にもマイナーな日本が、どうにか高い文明を築き得たのは、勉強心ゆえ。それを支えてきたのが本であり、出版であるということをお忘れたくない。長い不況を脱したともいわれる我が国の深層では、学力低下、知恵の低下が進んでいることも忘れてはならない。知恵を高め、新たな可能性を導き出す役割を担わねばならぬ出版は、売上も上がっていかねばならない。(Mo)

第55期/第56期広報委員

<担当常務理事> 南條 光章(共立出版)

<委員長> 宮部 信明(岩波書店)

<副委員長> 後藤 武(彰国社)

森田 猛(緑書房)

<委員> 井上昭彦(朝倉書店)・池田富士太(科学新聞社)・長 滋彦(技報堂出版)・柏原徹二(南江堂)・小谷正博(恒星社厚生閣)・新谷滋記(工業調査会)・田中久米四郎(電気書院)・三宅恒太郎(彰国社)・安原仁(家の光協会)・柳澤則雄(永井書店)